

## 育ちの森 子ども支援室「ぬっく」

活動レポート

2019年10月



## 安心できる居場所づくり



「実りの秋」と言われるように、この季節は、子どもたちが今まで頑張ってきたことを発表したり、表現したりすることを通して、自分の成長を感じることが多いと思います。

ただ、一方で、疲れや弱音を訴えたいくなる時期でもあります。「もう、勉強したくない」「何もする気になれない」「どうせ自分なんて…」というような言葉を子どもたちがつぶやくと大人は心配になりますね。でも、人は思っていないテーマについては口にしないそうですから、「勉強することは大切なんだ」「何か始めたい」「本当は人に誇れることがしたい」と思っているからこそ出てくる言葉なのでないかと思われます。今の自分には高すぎる目標だと感じているために、否定的な言い方になるのでしょうか。

「そう思うんだね。」と共感しながら、「ここまでできているよ」と過程を認めることで、「分かってもらえている」と安心し、目標に向かっていく力が充電されると思います。私たち「ぬっく」の職員も、保護者・先生・地域の皆さんとともに、子どもたちにとって「自分を守ってくれる安心できる人・場所」になるように、思いに寄り添っていきたいと思います。

## 子ども理解講座

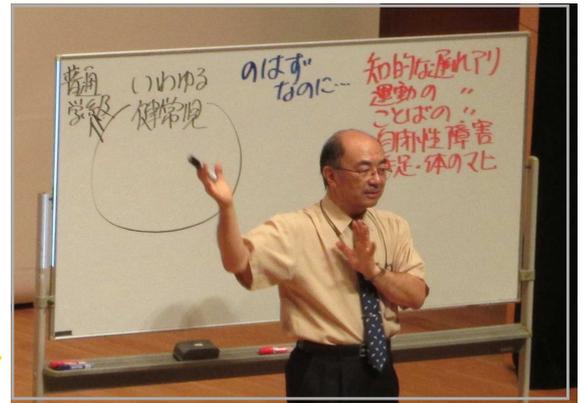
テーマ

「育てにくい子にはわけがある」  
～基礎感覚を育てる発達支援～

木村順先生を講師にお迎えし、保護者の皆さんと教職員がともに参加する「子ども理解講座」を8月5日(月)に開催しました。(参加人数231人)  
「適応力」の発達につまずきのある子どもたちの「現象面」よりも「内面世界」を読み取り、対応することの大切さを教えていただきました。

## ☆参加された方の感想☆

- 「ほめられたことは定着する」その通りだと思います。
- 子どもに対する言葉掛けを意識していきたいです。
- 大人の言葉ひとつで子どもは変われると思いました。(保護者の方)
- 適応力が育つように、日常の中で、全身運動、戸外活動を思い切りできる機会を作っていきたいと感じました。(教職員の方)



## 子ども支援研修会 ～教職員対象の研修会～

- ☆7/24(水)「特性のある子どものいるクラスづくり」福岡寿先生(参加人数182人)
- ☆11/1(金)に、名古屋学芸大学准教授 今井正司先生に「注意の働きに偏りがある子への配慮と指導について～脳の働きを踏まえた発達支援～」というテーマで、講演していただきます。先生方の参加申し込みを受け付けています。ぜひ、御連絡ください。